

特集2

王迎地区「楽居」

「絹布絵」制作を楽しんでいます

王迎地区では、昨年新築した集会所で『クリスマススケークづくり』や『子どもの日の祝い』『敬老会』など季節の催しを行い、地域住民の交流の場として活用しています。

「王迎はもともとから住んでいる住民は少なく、新たに住み始めた方が多いので、どうにか住民同士の交流、親睦を深める場所が欲しかった。集会所ができて、色々な催しを行うごとに、地域の住民同士がより知り合い、得意な趣味を披露したり、教え合う場にもなってきました」と宮川博区長は言います。

そんな中、今年2月、同地区の久保田順子さんが講師となり『絹布絵』講習を行いました。

一度きりで終わると思われる講習会は、参加者に大変好評で、引き続き行うことになりました。

今では「楽居」という集まりで、月の隔週火曜日に集会所で作品制作をしています。『楽居』は「楽に居られる、

何でも趣味を楽しめる集まりであるように」との願いを込め、絹布絵制作だけでなく、それぞれが自由に楽しめる場にもしていきたい思いから命名したそうです。

6月13日から同月28日の期間には、道の駅ビオスおおがた情報館で作品展示会を開催しました。

キルトやパッチワークとはまた違った布の絵画は、平面ではありますが、布の光沢の

加減や布目の流れで立体的にも見え、大変趣きがあります。

「針や糸を使わず、技法も一度覚えると誰でも簡単にできます。参加者の中には小学生もいます。集会所では布選びや色のバランス、オリジナルの構図を考え、創作に意欲を燃やしています。着物の残布や使わなくなったスカーフ、ネクタイなどの他、絹以外の素材でも楽しめます。同じ柄でも全く違った印象の作品になりますよ。また、使わなくなった和服などでも、思い入れのあるものなら、その一部(布)をひとつの作品として残すこともできるのですよ」と、絹布絵制作の楽しさを教えてくださった久保田順子さんは、昨年6月に関西から夫とともに黒潮町にUターンしてきました。

「むこうで習った絹布絵、移住草々に地域のみなさんと交流させていただけで大変うれし



王迎「楽居」メンバーのみなさん

く思っています」と話してくれました。

宮川区長からも「地区にとっても、みんなが集まって親睦を深める場がひとつ増え、とてもありがたいことです。今後も、それぞれみんなの得意な趣味や技術を教え合う機会を増やしていきたい」とお話をいただきました。

王迎地区集会所での今後の活動がとて楽しみみです。

残布提供のお願い

ご使用にならない残布を「絹布絵」創作にご提供ください。

①センチメートル角以上であれば、どんな形・大きさでも。切れ端、しわの物もそのまま結構です。

※端がほつれやすい・厚みがある帯地など、使用できない布もありませんがご返却いたしませんのでご了承ください。

布遊び 楽居

(代表久保田順子)

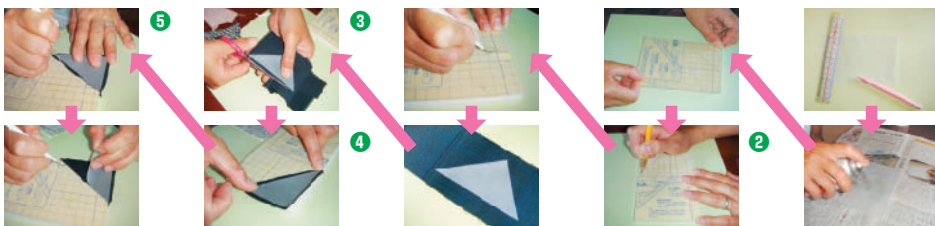
☎ 31-72228

絹布絵のつくり方



必要なもの

- 絹布
- スレンチボード(のり付き)
- トレーシングペーパー
- はさみ、デザインカッター
- 鉄筆(目打ちでもOK)



- ① 図案をトレーシングペーパーに写し、裏にスプレーボンドを噴きつけて、スレンチボードに貼り付ける。
- ② 下絵にそってカッターで切りこみを入れる。ペーパー部分を型取りながらはがし、布に貼る。
- ③ 型紙から1.5~2ミリ幅のキメシロをつけて布を切ります。(余分をカットしたり切り目を入れてください。)
- ④ ボードのカッターの切り込みめに鉄筆で溝を入れます。ボードの紙をはがし型紙をつけたまま布を貼り付けます。
- ⑤ 溝にそって布を木目込み、糸や布がはみ出していないのを確認して型紙をはがします。(②から繰り返します)